

What's up,



OITA!

(どげえかえ、ふるさと大分！)

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol. 67》2018年9月発行

なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～ 【中津市/日田市】



(中津市)
福澤諭吉旧居



(中津市)
青の洞門



(日田市)
豆田町



(日田市)
威宜園

マレーシアのマハティール首相が来県されました

8月9日に、マレーシアのマハティール首相が、立命館アジア太平洋大学(APU)での名誉博士号の授与式に出席するため来県されました。

マハティール首相は、APUの開学前からアドバイザー・コミッティ名誉委員を務めるなど、長年貢献されてきました。その功績を称え、敬意を表し、APUの出口治明学長から名誉博士号の学位記と肩章を授与されました。

マハティール首相は挨拶の中で、「世界各地から多くの学生が集まり、学んでいるこの大学の環境は素晴らしい。多様性に富む学生が共に過ごすことで相互理解が深まり、戦争やテロ等の国際問題の解決にもつながる。今後も貢献していきたい。」と述べました。

1981～2003年にマレーシア首相を務めたマハティール首相は、今年5月に再び首相に就任しました。親日家として知られており、「ルック・イースト」政策を進めてきました。今後、マレーシアと大分県の交流もより活発になることが期待されます。



第1回アジアビジネス研究会が開催されました

8月22日に、今年度第1回目となるアジアビジネス研究会が開催されました。タイで事業を展開しているソフトウェア会社の株式会社エイビスの吉武俊一社長に「零細企業の海外チャレンジ」という演題で、また外国人観光客が多く訪れる旅館山城屋の二宮謙児代表に「山奥の小さな旅館が連日外国人客で満室になる理由」という演題で講演をしていただき、その後ミニパネルディスカッションという形で参加者の理解を深めました。実際に海外展開や海外からの誘客に現在進行形で取り組んでおられる企業の経営者である講師の方からのお話は、参加された県内企業の経営者の皆様にとって興味深いものだったようで、熱心な質疑応答がありました。



次回のアジアビジネス研究会は、10月11日に、立命館アジア太平洋大学にて開催予定です。出口学長にグローバル人材について講演をいただくことになっています！

「おおいた留学生～未来の社長塾」が始まりました

県内で学ぶ留学生の皆さんが、在学中もそして卒業後も大分で活躍できるように「おおいた留学生ビジネスセンター」が開設されていることをご存知でしょうか？ 2016年秋以降、多くの留学生や県内企業の皆さんにご利用いただいています。実際に、卒業生の会社も誕生し成果を上げています。

さて、今年度センターで新しい事業「おおいた留学生～未来の社長塾」が始まりました。「大分をビジネスにしてみよう！」をテーマに、大分のお酒・観光資源・農産品について、各分野の経営者に直接学び、自らのビジネス感度を上げて事業化に向けたビジネスプランを作る体験型セミナーです。7月終わりに、県出身の仲谷善文氏（(株)e-Growth Capital代表）によるキックオフイベントを開催し、初年度は県内大学に通う3名の留学生と日本人1名の計4名の塾生でスタートしました。これから酒造り体験や先輩起業家とのディスカッションを経て、彼らが提案する大分のビジネスプランが楽しみです。

【おおいた留学生ビジネスセンター】



第2回「大分県スタディツアー」を実施しました

大分県私費外国人留学生奨学金の受給者を対象とした「大分県スタディツアー」の第2回目を、7月14日に実施しました！

【ぎびえる本舗 工場見学】

ぎびえる本舗で製造・販売しているお菓子（ぎびえる、瑠異沙、豊のたちばな、月さらさ）を実際に味わいながら、商品の説明、経営理念、会社概要など太田社長自らお話いただきました。留学生たちからはおいしい！との声が多く上がりました。



【川崎かぼす農園 見学】

事務所でかぼすジュースをいただき、その後広大な農園へ移動し、ブルーベリーを試食をしながら見学しました。かぼすの効能や、栽培方法についても説明いただきました。かぼすを海外の方へどのように認知してもらえるか、またかぼすを使った新しい商品開発のビジネス課題について学生が考えるよい機会となりました。



【風連鍾乳洞 見学】

ガイドの方に鍾乳石について説明を聞きながら見学しました。初めて鍾乳洞を見学する学生が多く、神秘的な光景に驚いていました。鍾乳洞としては山口県の秋芳洞が有名ですが、風連鍾乳洞でしか見られない巨大なつらら状の鍾乳石もあり、貴重な見学となりました。

新規JETプログラム参加者が来県しました

8月に入り、世界各国出身の新たなJET青年(外国語指導助手:ALT、国際交流員:CIR)が来県しました。県内に配置されているJET青年の数は、昨年度まで91名だったJET青年の数が、今年度から大幅に増え、102名(8月末時点)となりました。

県では、新たに来県したJET青年に向けて、オリエンテーションを実施しています。今年度は8月17日に実施され、35名の新規参加者が、大分県内で仕事や生活をしていくにあたり必要なことを学びました。

CIRについては1名増員しました。別府市が新たに英国からのCIRの任用を開始し、Ella Donaldson(エラ・ドナルドソン)さんが着任しています。

また、県にもオーストラリアからのCIRが配置されましたので、ご紹介します。Xie Xin Lan(シエ・シンラン)さんです。本誌にもレポートを書いてもらうほか、英語版「What's up, OITA!」の編集も担当します。県内各地に出向いてさまざまな仕事をしていただく予定です。よろしくお祈りいたします!



初めまして。オーストラリアから参りましたシエ・シンランと申します。勤めはじめて一ヶ月が経ち、大分の生活に徐々に慣れてきました。大学で日本語と言語学を専攻した時に、様々なきっかけで日本各地に行ったり、当地の文化に触れたりして、日本という国のことが好きになりました。国際交流員として大分県庁に着任し、教室で習った知識を身につけることができ、大変うれしく思っております。

ちなみに、羽田空港行きの飛行機に乗った間に、きれいな星空を飛ぶ夢を見ました。この先の道も天の川のように輝きますように、未来の日々を楽しみしながら、仕事を頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



湖北省研修員レポート ♪大分体験記♪

8月25日の夜、県庁の同僚と一緒に津久見扇子踊り大会に参加しました。これまで、日本の祭りを何度も観たことはありますが、参加することは初めてなので、強く印象に残りました。

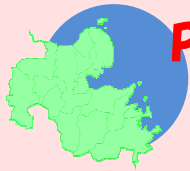
伝説によると、津久見扇子踊り大会は450年間の長い歴史を持ち、戦国時代に戦没した戦士や農民の供養の願いをこめて創設したと伝えられています。津久見踊りは、もともと亡き魂を悼むために作られた踊りでしたが、時の流れにどんどん京舞いの影響を受け、過去と現代が繋がりながら現在の形になってきました。

その8月の夏の夜に、色鮮やかな扇子を持ち、彩り豊かな浴衣を着たりして、まるで昔の世の人々の時代に戻ったように、不思議で愉快的な雰囲気染められ、ひらひらと舞い踊りました。

この面白い経験から、私は、日本人の皆さんは伝統的な文化を大切にして受け継いでいくことと、昔の神秘的な祭りがどのように現代の日本の人々を強く影響を与えるのかということを感じました。そのおかげで、大分と日本の文化に対する興味をかき立てられ、この先の研修の時間がより楽しみになりました。



【湖北省からの研修員 陳娟(ちんけん)さん】



Pick Up! 大分の「今」

県内の出来事（8月）

News

【8月5日(日)】夏の甲子園 藤蔭高校 VS 星陵高校

第100回全国高校野球選手権で、28年ぶりに夏の甲子園出場を果たした大分県代表の日田市の藤蔭高校は、5日に石川県の星陵高校と対戦しました。星陵はゴジラこと松井秀喜選手を輩出したことで知られる強豪校です。前半に9点を取られ、後半に粘りの4点を取り返しましたが惜しくも敗れました。

News

【8月15日(火)】スーパーボランティア 尾畠さん

山口県周防大島町で12日午前から行方不明になっていた2歳の藤本理稀(よしき)ちゃんは15日、搜索ボランティアとして現地を訪れていた日出町の尾畠春夫さん(78歳)に発見されました。尾畠さんはこれまでも、各地の被災地に赴いてボランティアをおこなっており、その行動力がメディアに取り上げられ一躍有名人となっています。

News

【8月21日(火)】大分県出身者も活躍 アジア大会

19日～30日にジャカルタで開催されたアジア大会で、大分県出身の選手も活躍しました。競泳の200メートル平泳ぎで2分7秒82を出した渡辺一平選手が銀メダルを獲得しました。一位の小関也朱篤選手とはわずか0秒01の差でした。

渡辺選手は津久見市出身の21歳で早稲田大学に在籍中です。過去にリオオリンピックや世界大会にも出場しています。今後の活躍も期待されます。

※国際政策課にて新聞等を元に作成

「大分で会いましょう。」プロジェクト第3回ライブ配信のお知らせ

全国から多彩なゲストを迎え、大分県のまだ知られていない魅力について各地で楽しいおしゃべりを繰り広げる移動型ネットラジオ放送局「大分で会いましょう。」

第3回目の放送は、音楽家の蓮沼執太さんとタブラ奏者のユザンさんをゲストにお迎えし、「音」にまつわるトークと旅の様様をお届けします。ジャンルや国を超えて幅広く活躍しているお二人は、昨年コラボレーションアルバム「2 Tone」を発表し、未曾有の音楽的領域での息のあったパフォーマンスが好評を博しました。配信は9月26日(水)19時から公式サイト・Facebookで行います。音楽同様、二人の息のあったトークをぜひお楽しみください。



「大分で会いましょう。」公式ホームページ <https://oita.love>

【広報広聴課】

From our Reporters

県の国際交流員が、旬なOITA情報をお届けします。



金 眞雅
(Kim Jina)

T'way大分ーソウル線のPR事業の一つとして韓国の若者層に人気の旅行動画サイト「Dingo Travel」が大分県の観光動画を制作し、配信することになり、取材チームとかわいいモデルさんが大分を訪れました。

3日間行われる取材は私も同行して九重町のタデ原湿原、九重夢大吊橋、竹田市のくじゅう花公園、久住高原コテージ、日田市の屋形船、佐伯市のお寿司、豊後高田市の真玉海岸など県内の魅力的なところを巡りました。

晴天に恵まれ、ドローンでの撮影も行われたので、とてもきれいな映像が撮れています。皆さんもぜひ観てください！



セーラ・バックレイ
(Sarah Backley)

最近暑い日々が続いていて、外に出るだけで眠くなりますが、8月は大分の激しい暑さと湿度の中で「第36回大分七夕祭り」の府内戦紙踊りに参加しました。

当日は街中がどれほど忙しいかを予想していなかったので、始まる直前に自分のグループを見つけて、ぎりぎりに間に合いました。チームごとの山車と踊り隊で「セイヤ！セイヤ！」と叫びながら、80分間踊りました。本当にあっという間に終わりましたが、数分おきの周りの「セイヤ～」の掛け声がどうしても私の名前に聞こえていました！

私の一般のグループだけで1000人以上の参加者が登場し、友達と踊るのはもちろんですが、知らない人と話し、一緒に踊れたのが一番思い出に残ります。全体で5000人以上の人が踊り、このような機会が県が一つのコミュニティになって楽しめるのが大分の魅力の一つだと思います。



方 応梅
(Fang Yingmei)

8月5日、大分市の大分川で大分合同新聞によって主催された大分夏期納涼花火大会が行われました。花火大会は8時からでしたが、7時前にもうたくさんの方が川辺に花火がよく見えるところを探しに来ました。普段は静かな街ですが、あっという間に大勢の人で賑わいました。花火に来た人はカップルもいれば、一家団欒のように家族と一緒に来た人もいます。綺麗な浴衣を着て、ゆっくり歩いている女性もたくさんいて、本当に面白かったです。8時に花火大会が時間通りに始まりました。音楽と花火がコラボした多彩な花火を楽しめる大分県内最大級の夏祭り「大分七夕まつり」のフィナーレを飾る花火大会で、大分の夜空で花火と音楽が共演しました。今年のテーマが「四季」で、花火を打ち上げる時に、茸、蛙、樹などいろいろな季節の風物に変えて「四季」というテーマを上手に表現して、本当に素晴らしかったです。



～編集後記～

この夏は大分でも記録的な暑さを体験しましたが、皆さんの地域ではどうだったでしょうか。今年の大分の秋は、20年ぶり2回目の開催となる国民文化祭、初の開催となる全国障害者芸術・文化祭で大いに盛り上がるのが予想されます。その特別連携事業として、10月から別府公園で、国際的に注目されているイギリスを代表するアーティスト、アニッシュ・カプーアの個展が開催されます。ロンドンオリンピックの記念モニュメントの制作など、大規模な作品で世界中を魅了してきたカプーアの作品を別府でみるができますので、機会があればぜひご覧ください。

(国際政策課長 徳野 満)

話題提供のお願い！

県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！
(様式は任意です)

【記事提供／お問い合わせ先】国際政策課 担当：小野
【Mail】 a10140@pref.oita.lg.jp